



日本ジュニアペタンク選手権で好成績を収めた小山さん、唐川さん、高谷さん、三嶋さん（写真左から）

全国大会準優勝と第3位に輝く

日本ジュニアペタンク選手権

10月26日に京都府で開催された日本ジュニアペタンク選手権大会に出場した唐川凛さん、小山怜美さん（ともに清音小4年）ペア、三嶋竜弥さん（清音小4年）、高谷和叶さん（常盤小3年）ペアが、それぞれ準優勝と第3位の栄冠に輝きました。8チーム総当たり、計7試合の戦い。4チームが4勝3敗で並ぶなか、得失点差で勝ち抜きました。4人は、総社市のペタンクチームS O L E I Lに所属。週に2日から3日、コーチを務める佐野裕二さんの自宅敷地内コートで練習しています。「入賞できてうれしい。けど、あと一步で優勝を逃したのが悔しい。次こそは優勝したい」と来年の大会へ照準を合わせていました。

赤米交流を深める

新本赤米の稲刈り・赤米サミット

総社赤米大使の相川七瀬さんが11月5日、新本小学校の5年生10人、本庄国司神社赤米保存会のメンバーらと新本にある本庄国司神社の神田で、無事に育った赤米の稲穂に感謝しながら収穫を行いました。

相川さんは、「3月に赤米協定を締結し、ここからがスタート。次世代を担う子どもが赤米を守ってくれるよう働き掛けていきたい」と話しました。

10月19日には「赤米サミット2014 in くさな」が鹿児島県南種子町で開催され、相川さんをはじめ、総社市新本、南種子町、長崎県対馬市の赤米保存会のメンバーらが参加。赤米を使った特産品の紹介や各地域の伝承活動の報告などの意見交換が行われました。また、3市町の赤米保存会の代表が、さらなる友好を深め、赤米文化を次の世代に伝えようと宣言しました。



新本の本庄国司神社の神田で赤米の稲を刈る相川さんと新本小の児童ら



赤米協定を結んでいる総社市、南種子町、対馬市の首長らと各地域の保存会メンバー。3市町で赤米大使を務める相川さんを囲み、サミット開催を祝う

ミニフォト

子どもとお茶を楽しむ



茶せんでお茶をたてる

清音地区文化祭が開催された11月1日、子どもお茶席が清音公民館に設けられました。清音小と総社西中の児童・生徒16人が普段の稽古で習得したお茶の作法を披露。訪れた人の前でおいしいお茶をたてていました。

糖尿病への関心を高める



青く照らされる五重塔

世界糖尿病週間の11月10日から16日までの毎夜、備中国分寺五重塔がブルーにライトアップされました。癒やしや希望を表すとされる青色。普段とは異なり神秘的な様相の五重塔に、見る人は心を奪われていました。

たわわに実った柿を収穫



竹のさおを使い柿を取る児童

砂川公園内にある観光柿園に柿が実り、10月24日に開園式が行われました。阿曾小学校の児童ら約20人が出席し、富有柿の収穫に挑戦。自ら取った柿をその場で食べ、旬の味覚に舌鼓を打っていました。



3位入賞を果たし、ガッツポーズで写真に収まる選手ら

長崎国体で快挙

ハンドボール少年男子第3位入賞

10月12日から22日まで長崎県で開催された第69回国民体育大会で、ハンドボール少年男子の岡山県チームが、第3位に入賞を果たしました。

チームのメンバーは、総社高校の生徒9人と岡山理科大学付属高校の生徒3人。そのうち総社市関係の選手10人と監督らが10月27日、入賞報告に市役所を訪れ、今後のさらなる飛躍を誓いました。

秋の吉備路を歩く



秋風を感じながら歩く参加者

そうじゃ吉備路ウォーキング大会が11月2日に山手公民館広場を発着点に開催され、約600人が参加しました。距離別に分かれた4コースで備中国分寺や作山古墳などの名所を巡り、秋の吉備路を楽しみながら歩いていました。

お口の中も健康に



口腔内の原因菌を顕微鏡で確認

吉備路お口の健康まつりが10月19日、天満屋ハッピータウンリブ総社店で行われました。口腔内に潜む原因菌の顕微鏡観察や、むし歯のリスク検査を無料で実施。473人が受診し、口の中の健康度を確かめていました。

100歳おめでとう



家族に祝福される中川さん

中川信雄さん（総社二丁目）が10月20日に満100歳の誕生日を迎えられ、10月22日に市から記念品が贈られました。尺八の製作と演奏が得意だった中川さん。長寿の秘訣はウォーキングで体を動かしてきたことだそうです。

育じい育ばあになる



クリスマスツリーを作る

シニア世代にも子育てに参加してもらおうと、三代交流イベントが10月26日、岡山県立大学で開催されました。親子連れら118人が参加。尿素を使ったクリスマスツリーの作成やウォークラリーで交流を深めていました。

命を守る備えを



寝室に住宅用火災警報器を設置

1人暮らしの高齢者宅に10月下旬から11月中旬にかけて、婦人防火クラブ員と消防職員らが住宅用火災警報器を設置しました。日美、水内地区を訪問。設置の有無を確認しながら、未設置の家屋に取り付けて回りました。

日本最古の製鉄に挑む



炉を壊し鉄（ケラ）を取り出す

鉄鉱石を使ったたたら製鉄に挑戦する秋のたたら操業が10月12日、奥坂のたたら場で行われました。鉄鉱石と炭を交互に炉に投入。15時間以上操業し、37kgの鉄鉱石から11kgの鉄の塊を取ることができました。